

岐阜キリシタン小史(13)―美濃(尾張)キリシタン年表 江戸時代②―

※この年表は森徳一郎氏著『尾濃切支丹年表』(1935)を基に作成した。右列の日本の主な出来事はこの「小史」の執筆者によるもの。

西暦	和暦	地域区分	キリシタンに関わること	日本の主な出来事
1610	慶長15	尾張	神父が清州に徳川義直(尾張藩初代)を訪ね、かつ城下における信徒の信仰をより強固なものにした。	
1612	慶長17	全国		●家康禁教令を発出「通商は奨励するが布教は禁ず」
1613	慶長18	美濃	美濃の代官大久保長安が死す。遺族間に争いがあり家も亡ぶ。秘匿物の中よりキリシタンの文書が発見された。	
1614	慶長19	大坂		●大坂冬の陣
1615	元和1	美濃大阪	フランシスコ派の教父ディエゴが2か月美濃に留まる。	●大坂夏の陣、豊臣氏滅亡
1616	元和2	駿河		●家康死去、秀忠さらに禁令を発する
1619	元和5	尾張	尾張でキリシタンの迫害。一宮より多数の信徒が捕らえられた。	
		京都	京都でも迫害あり。52名が六条河原で火刑に処せられた。うち尾張出身者8名、美濃出身の婦人もいた。	
1620	元和6	尾張美濃	イエズス会のベント・フェルナンド神父は江戸に派遣される途中、近江・美濃・尾張に立ち寄った。一宮の新しい信徒は尾張藩に脅嚇されていたが、藩主義直は彼らが決死的であることを見て、家臣を失うことを恐れ、彼らを罰しなかった。	※ベント・フェルナンデス神父は1633(寛永10)年長崎で殉教
1621	元和7	尾張美濃	イエズス会のディオゴ結城(了雪)神父は近江・美濃・尾張・伊勢・紀伊の諸国を巡教。	※ディオゴ結城は1633(寛永10)年大坂で殉教
1622	元和8	長崎	<u>長崎で55名が火刑、斬首(元和の大殉教)。その中に尾張出身者もいた。</u>	 ルビゴ灰木 バウロ鉄木 レオン馬丸 コスメ竹籠 バウロ灰木 尾張の五聖人(カトリック一宮教会のレリーフ) いずれも尾張出身者。長崎で殉教した二十六聖人に数えられる。
1624	寛永1	尾張	尾張一宮の仏教徒が寄り集まってキリシタン信徒を負債攻めにした。キリシタン信徒らは互いに協力しすべてを返済し、かつ藩に威嚇されたため手元に残った金もすべてを提供した。そして曰く「我らはキリストのためにしする運命を有するが故に、現世の如何なる物をも必要となさず」と。	
1625	寛永2	全国		●幕府はキリシタンの一層禁止の触れを出す
1626	寛永3	尾張美濃	日本人の一教師が濃尾その他の信徒を歴訪した。	 隠れキリシタンの里(岐阜県御嵩町)
1628	寛永5	尾張	一宮の医師コスモ道閑が丹羽郡高木(現扶桑町)に伝道し、2名を信徒とし、2歳の子どもにも洗礼を授けた。	
1629	寛永6	尾張江戸	ドジック・アレキシス(神父?)が以前尾張でもしていたように江戸でも多くの人に洗礼を施した。	
		尾張	一宮の兵右衛門が2歳の子に洗礼を施した。また、その後同地に探索があり、一人が検挙されて名古屋に送られたが、改宗して赦免された。	